

「内陸のフロンティア」を拓く取組

アナ： 「市長が語る 2017 三島」第 17 回の今日は、『「内陸のフロンティア」を拓く取組』についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： さて、『「内陸のフロンティア」を拓く取組』という言葉はときどき耳にします。インパクトのある事業名で、内陸部を開拓していこうというイメージですが、実際のところは、どのような取り組みをされているのですか。

市長： 内陸のフロンティアを拓く取組というのは、防災・減災の取り組みと地域成長という 2 つの大きな目標を掲げた構想になります。東日本大震災以降、津波被害の心配がない内陸部の主要幹線道路のインターチェンジ周辺などを中心に、静岡県と市町が連携して企業誘致や住宅地の整備などを進めています。

アナ： 静岡県全体で取り組んでいる大きな事業なんですね。それでは、三島市が進めている事業にはどのようなものがあるのですか。

市長： 三島市は、最も積極的にこの事業に取り組んでいる市町の 1 つです。

まず、三島に進出してくださる企業を増やすことで、市民の皆様の働く場所を多く確保することを目的として、三ツ谷地区の約 21 ヘクタールの土地に市内で 3 番目となる工業団地を整備しています。現在は造成工事が進んでおりまして、来年の秋には完成の予定です。すでに進出がほぼ決まっている企業も何社かありまして、全体で約 1,000 人くらいの新規雇用が生まれるのではないかと期待しています。

それから、玉沢の三島総合病院に隣接している、約 4 ヘクタールの土地については、医療・健康・福祉分野を中心とした企業誘致を進めています。

また、大場地区、三島南高校の南側約 19 ヘクタールの土地についても地権者の皆様が中心となって利活用を検討しています。

アナ： 三島は津波の心配はないですし、新幹線だけではなく、東駿河湾環状道路や新東名が開通して首都圏へのアクセスも抜群ですから、企業の進出にも大変お勧めできる場所であるというわけですね。

市長： そうですね。これまでは三島に進出したいという企業があっても、開業していただけるような広い土地がなかなかありませんでしたが、これからは自信を持ってご紹介ができますので、ぜひとも優良企業に来ていただきたいですね。

それから、働く場所の確保と同時に、三島に移り住んでいただくための住宅地の整備ですが、今年 1 月には、民間事業者の施工により北沢地区に 133 区画の新たな住宅地が完成しました。大変好評でまもなく完売の見込みと伺っています。

また、大場地区と市山新田地区におきましては優良田園住宅と呼ばれる、良好な

自然に恵まれた環境の中に従来の分譲地よりも少し広い区画を整備し、ゆとりのあるライフスタイルを実現するための住宅建設に向けての造成工事が進んでおり、今年の秋ごろ完成の予定です。

アナ： 三島に住みたいという方がたくさんいらっしゃるのありがたいことですね。

市長： 三島市では、市外からの移住者に対して最大で265万円の補助金も用意しています。多くの若い人たちに移住していただきたいですね。

アナ： 移住される方には、とても嬉しい支援ですね。観光客も増えているようですし、内陸フロンティア事業によって、防災の機能が強化された土地に、新たな企業が進出して働く場所が増えて、移住してくださる方も増えていく。そうなることで、地域も経済も活性化されて三島市全体がますます元気になっていく。それは、今まで暮らしてきた私たちにとっても幸せなことですね。

市長： そうですね。それがまさにスマートウェルネスという考え方で、人もまちも産業までもが元気になる。そういう良い循環をつくっていくためにも、まちづくりに参加してくださる市民の皆様や民間企業の力を借りながら、市民協働のまちづくりをしていくことが重要だと思っています。

アナ： 本日は内陸のフロンティアを拓く取組についてお話を伺いました。企業誘致や移住の取り組みについては、また別の回でも詳しく伺います。豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。